

主張

金属労協議長／全日本自動車産業労働組合総連合会会長 金子 晃浩

魅力ある未来を創っていきましょう！

今期より金属労協議長に就任しました自動車総連会長の金子晃浩です。どうかよろしくお願ひします。

さて現在の日本の金属産業は、デジタルトランスフォーメーション（DX）やカーボンニュートラル、そしてその根底にある第4次産業革命と言われる大きな荒波が押し寄せてきており、将来を左右する非常に大きな変革期を向かえています。そうした中、欧米諸国や中国による覇権争いが繰り広げられており、各国が過度な自国主義や保護貿易政策を打ち出すなど、これまでのやり方では通用しづらくなってきている大変厳しい競争環境に晒されています。

また足元では、（この原稿を執筆している11月初旬時点では、感染者数や重症者数が減少傾向なのは幸いです）依然として新型コロナウイルスによる社会に与えた影響は大きく、この後のウィズコロ

ナ、アフターコロナを見据えた私たちの働き方、更には生活様式そのものの見直しをも迫られている状況と言えます。

こうした中、金属産業の持続可能な発展とそこに集う働く者・生活する者の生きがい・働きの高めていくために、金属労協として果たすべき役割は非常に大きいと認識しています。

各方面から 魅力を高めていく

今後の運動を推進していくにあたり、私自身、以下5つの観点を意識しながら取り組んでいきたいと考えています。なお正直に申し上げれば、これらは本年9月に自動車総連として取りまとめた目指すべき方向性を基にしているのですが、こうした観点は普遍的で、金属産業全体にとっても相通するものがあると思つたわけです。

「日本の魅力を高める」

日本は超少子高齢化と同時に人口減少が進行する中、長らく経済が低迷している一方、世界経済は拡大傾向にあり、市場のグローバル化がますます進むことで日本の相対的な優位性は低下傾向にあります。各国から信頼され影響力を行使できる日本のステータスを維持していくために、政労使それぞれの立場から国内外に対する活動・役割を果たし、また各方面とも連携を図ることで、まずは日本の優位性を維持・向上させていかなければなりません。

「金属産業の魅力を高める」

日本は何で稼ぐ国を目指しているのか？この問いに対する解は決して一つではないでしょう。しかし、GDP構成比で約2割を占める製造業がこれからの一翼を担い

続けていかなければならないのは言うまでもありません。

とりわけその中核をなす金属産業は、国や産業の枠を超えた構造変化に対応し、環境面、技術面においても世界をリードし続ける産業として日本の事業基盤を確固なものとしていかなければなりません。そのためには、日本の強みである一体感やチームワークを基盤にこれまで蓄積してきた技術力や生産性を高めつつ、同時に私たちの望む産業政策の実現に向けても注力していく必要があります。

「働く者の魅力を高める」

産業は言うまでもなく人で成り立っています。働いている人たちの表情が暗く活気の無い産業や職場は決して魅力的には映りませんし、ましてや魅力の無い産業や職種に積極的に就きたいと思う人はいないでしょう。

そうならないために、まずは公平・公正な税制や持続可能な社会保障制度を実現することで、全ての生活者・働く者の将来不安を払拭していかなければなりません。そしてその上で、金属産業で働く仲間たちがしっかりと報われ、活き活きとやりがいをもって安心・安全に働き続けられるようにすることで、多様化する労働市場の中の誰からも働きたいと思われる「持続可能な魅力ある金属産業」を実現していく必要があります。もちろん産業内に人材を集めるためには、その魅力を広く世間に知らしめていく努力も必要です。

「地域との結びつきを高める」

金属労協の仲間は全国47都道府県各地域で働き生活していますが、誰一人としてその地域と無関係でいられるわけはありません。人口増減の二極化が進む各地域において、また工場や事業所の集積する地域において、働く者・生活者の立場から、誰もが心身ともに豊かに暮らせる持続可能な地域社会の実現に貢献していく必要があります。そのため、金属産業に集う仲間同士

が相互に連携を図り、各地域との結びつきを高めていくことは重要な役割です。またこうした活動を続けることが、地域社会からの信頼や地域の活性化にもつながっていくものと考えています。

「労働組合の存在意義を高める」

日本の労働組合の組織率は長期的には減少傾向にあり、直近では17・1%と2割にも至っていません。一方で労働組合の無い8割の企業が必ずしも経営に困っているわけでもないでしょう。したがって私たち労働組合としては、第一に組合員にとって、更に社会や企業にとってどれだけ付加価値を創出できるかということが、自らの存在意義に直結していると言っても過言ではありません。

金属労協としては、産業の発展と組合員をはじめ全ての働く者の経済的・社会的地位の向上を実現するとともに、国内はもとより、組織の特長を活かして関係各国とのつながりを強めることで、海外からも信頼され続ける組織にしていかなければならないと考えています。

人と人とのつながりを大切に

硬い話に終始しましたので、最後は私の趣味の世界で締めさせていただきます。

私は昔からアルコールが苦手です。今でも飲んで駄目なのですが、下手の横好きと言うのでしょうか、今や「日本酒」の虜となり、趣味が高じて嗜み酒師の資格を取ってしまったほどです。華やかな香りやお米由来の芳醇な風味と言った商品としての魅力だけでなく、それぞれの酒蔵にまつわる歴史やエピソードを知れば知るほど、同じモノづくりの仲間として応援せずにはいられなくなりました。まったくというわけではありません。

「和醸良酒」・・和は良い酒を醸す。これは業界内で受け継がれて来た言葉だそうです。

チームワークが良ければ自ずといふモノができる。モノづくりは人づくりであり、故に、自分と関わる多くの人たちとの和を大事にせよ！こうした蔵人たちの長年の経験に裏打ちされた言葉のように感じられます。

金属産業は、DXに代表されるデジタル技術の革新により世界中の様々なつながりを可能にできていますが、こういう時代であっても最も肝要なことは、昔も今も変わらず「人と人とのつながり」なんだと確信する次第です。金属労協に集う良い仲間たちとともに、魅力ある未来を創っていききたいと思えます。



金属労協議長／自動車総連会長
金子 晃浩 かねこ あきひろ

- 1969年 9月18日生まれ
- 1992年 4月 トヨタ自動車(株) 入社
- 2002年 9月 全トヨタ労働組合連合会 常任執行委員
- 2004年 9月 全トヨタ労働組合連合会 中央執行委員
- 2006年 9月 トヨタ自動車労働組合 局長
- 2008年 9月 全トヨタ労働組合連合会 副事務局長
- 2010年 9月 自動車総連 副事務局長
- 2012年 9月 全トヨタ労働組合連合会 事務局長
- 2017年 9月 自動車総連 事務局長
- 2021年 9月 自動車総連 会長(現職)
- 2021年 9月 金属労協 議長(現職)